

大学等における多様な海外・社会体験活動 プログラムの実施状況に関する調査

2014年3月24日 資料

調査実施 文部科学省 大学振興課 大学改革推進室
調査受託 株式会社ベネッセコーポレーション

I. 調査の概要

この調査は、国内の全ての大学等を対象として、海外・社会体験活動プログラムとして実施されている多様な取り組み事例を、アンケート調査の方法で収集することを目的に行った。

<この調査における「社会体験活動プログラム」について>

この調査では、海外、国内問わず、現地への派遣日数が1カ月(4週間×5日=20日を想定)以上にわたり、大学等のキャンパス外に学生を派遣し、社会体験からの学びを得ることを意図したプログラム(例:留学、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティア、サービスラーニング、企業等との共同研究、等)を調査対象とし、各大学には、この調査対象に該当するプログラムを「最大3つ」まで回答いただいた。

また、大学・短期大学、学部・学科等、組織的に認知されたプログラムに着目し、ゼミナールの一環として担当教員が個人的に実施している社会見学、医師・看護師・教員資格取得のために予めカリキュラムに組み込まれた実習等は、調査の対象とはしていない。

また、社会体験活動プログラムについて尋ねているので、「座学だけでなく、自ら活動に携わる要素が含まれる」条件を備えたものを回答対象とした。

なお、この調査では、大学院生のみを対象としたプログラムは対象外とした。

<回収状況>

・調査対象(調査票発送数)

大学・短期大学 1,112校 (大学 774校、短期大学 338校)

・回収校数

大学・短期大学 718校 (大学 525校、短期大学 193校) 回収率 64.6%

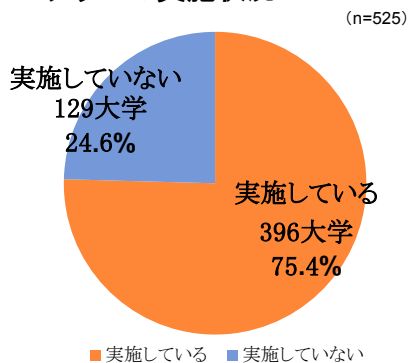
※回答は、郵送にて調査依頼状をお送りし、そこで指定したWEB上の調査票に回答者が直接回答を入力していただく方法で行った。

※この調査では、569件の社会体験活動プログラムの回答を得られた。このうち大学のプログラム510件をもとに、次ページ以降の分析を行っている。

(実施中のプログラムがある、として回答した大学は445校(大学 396校、短期大学49校、回収校数に占める割合は62.0%であった。)

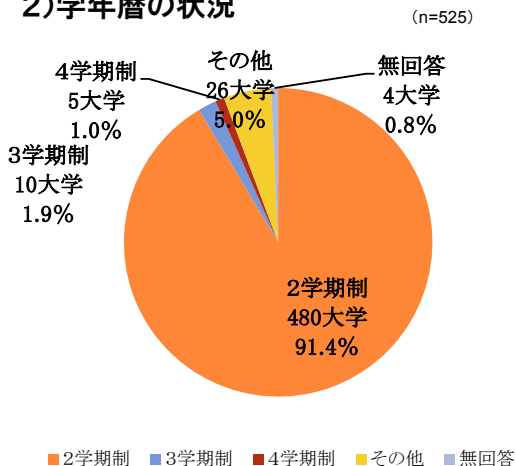
II. プログラムの実施状況

1) プログラムの実施状況



●本調査に回答した525大学のうち、社会体験活動プログラムを実施しているものは、396大学(75.4%)であった。

2) 学年暦の状況



●本調査に回答した大学の学年暦の状況を見ると、2学期制をとるものが91.4%を占めた。

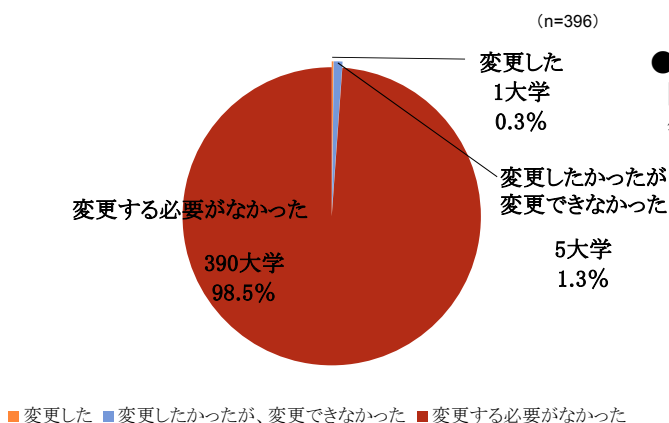
「その他」の回答には、通年制のほか、2学期制と4学期制を併存するもの等がみられた。

*この調査では、各大学に調査対象に該当するプログラムを「最大3つ」まで回答いただいたものを集計しているため、この調査結果が我が国における海外・社会体験活動プログラムの実施状況の縮図を示すものではない。

2

II. プログラムの実施状況

3) プログラム実施に際しての学年暦の変更状況

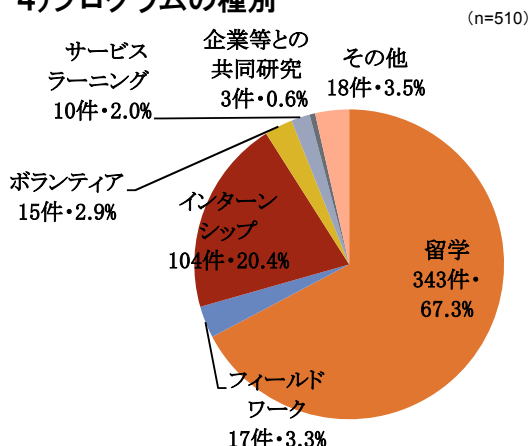


●本調査で、社会体験活動プログラムを実施していると回答した396大学のうち、プログラム導入にあたり、学年暦を変更したものは1大学、0.3%であった。

*この調査では、各大学に調査対象に該当するプログラムを「最大3つ」まで回答いただいたものを集計しているため、この調査結果が我が国における海外・社会体験活動プログラムの実施状況の縮図を示すものではない。

II. プログラムの実施状況

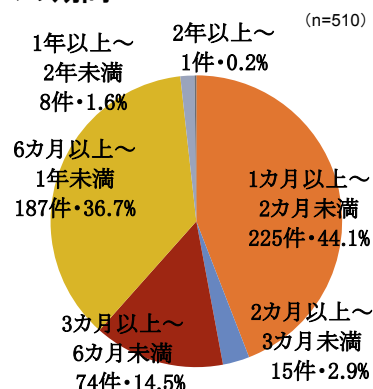
4) プログラムの種別



●本調査で回答された、大学が実施する社会体験活動プログラム(510プログラム)については、留学が最も多く67.3%を占めた。次いで、インターンシップが20.4%となった。

●フィールドワーク、ボランティア、サービスラーニング等、回答率の低いプログラムも残された。その他には、語学研修等が含まれている。

5) プログラムの期間



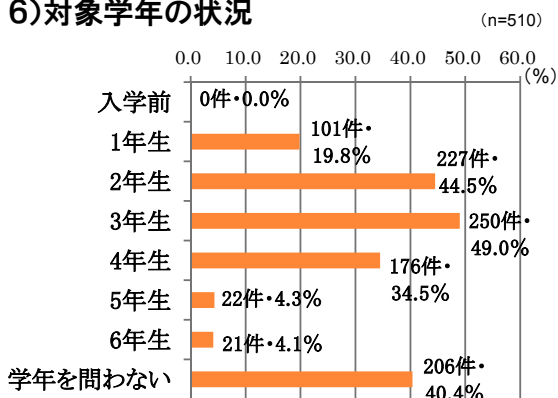
●本調査で回答された、大学が実施する社会体験活動プログラム(510プログラム)の実施期間は、「1か月～2か月未満」と「6か月以上1年未満」が各4割程度となり、2つの山ができた。長期休暇など、カリキュラムの中で確保できる時間が影響していると考えられる。

*この調査では、各大学に調査対象に該当するプログラムを「最大3つ」まで回答いただいたものを集計しているため、この調査結果が我が国における海外・社会体験活動プログラムの実施状況の縮図を示すものではない。

4

II. プログラムの実施状況

6) 対象学年の状況



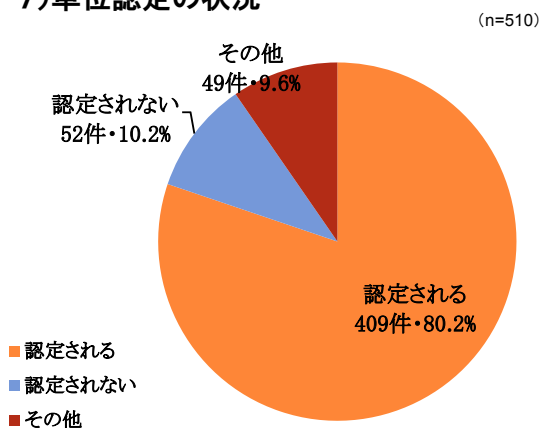
●本調査で回答された、大学が実施する社会体験活動プログラム(510プログラム)では、3年生、2年生、4年生の順に、対象学年を設定するものが多くなった。

●1年生を対象とするものは19.8%となり、他の学年と比較しても、まだ比率は小さい。入学前の学生を対象とするものは無かった。

●学年を問わないプログラムが全体の約4割を占めている。

*この集計は、複数回答である。

7) 単位認定の状況



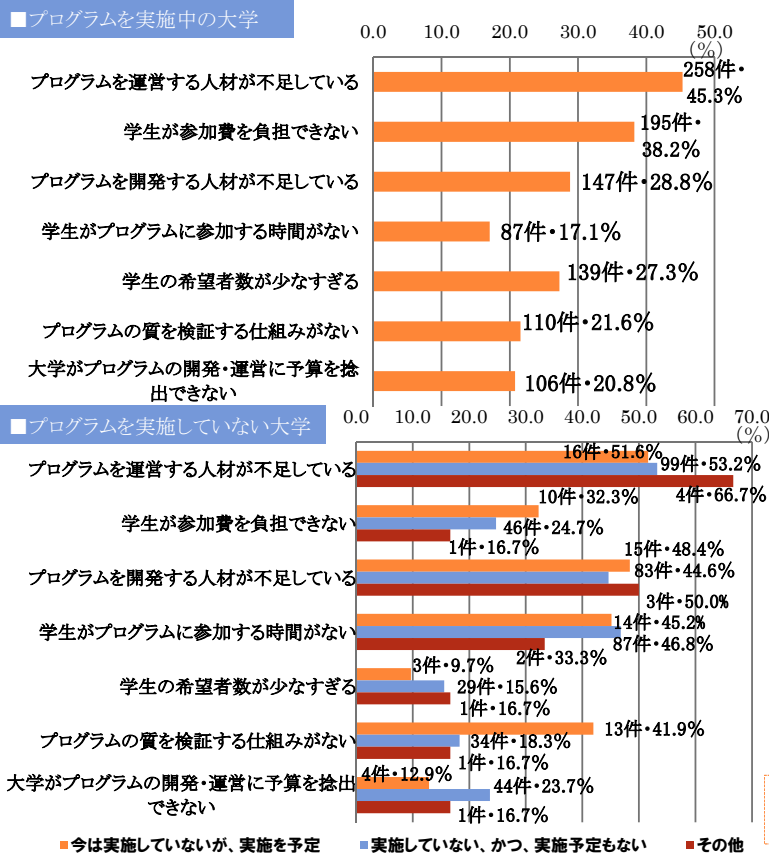
●本調査で回答された、大学が実施するプログラム(510プログラム)では、単位認定されるものは多く、80.2%に及んだ。

●「その他」には、派件先で受講し修了した科目数、取得した単位数により扱いが異なる、とするものがあった。

*この調査では、各大学に調査対象に該当するプログラムを「最大3つ」まで回答いただいたものを集計しているため、この調査結果が我が国における海外・社会体験活動プログラムの実施状況の縮図を示すものではない。

II. プログラムの実施状況

8) プログラム運営上の課題



プログラム運営上の課題を、実施、未実施別に、その傾向をみた。

●プログラムを実施する大学では、「プログラムを運営する人材」「学生が参加費を負担できない」といった普及に関わる項目が上位にくる。また、「学生の希望者数が少なすぎる」状況も指摘されている。

●プログラムを実施していない大学では、「プログラムを開発する人材の不足」を指摘する比率が高くなる。また、学生にとって「参加するための時間の捻出」に課題があることが指摘されている。

プログラムの質を検証する仕組みがないことは、プログラム導入までの各種調整で、必要性を伝える材料が乏しい状況を示しているとも考えられる。

*グラフ中の構成比は、各選択肢毎の回答率を示している。

●「その他」の中には、学生の動機づけや語学力の向上、プログラムの実施状況の把握や単位認定に値するか否かの評価の難しさ等を指摘するものがみられた。

*この調査では、各大学に調査対象に該当するプログラムを「最大3つ」まで回答いただいたものを集計しているため、この調査結果が我が国における海外・社会体験活動プログラムの実施状況の縮図を示すものではない。